

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成24年3月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成24年2月分(2月6日～3月4日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	9,795	21.34	10.42		10	百日咳	12	0.04	0.06	
2	RSウイルス感染症	219	0.76	0.72		11	ヘルパンギーナ	3	0.01	0.03	
3	咽頭結膜熱	129	0.45	0.44		12	流行性耳下腺炎	115	0.40	0.53	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	676	2.35	1.83		13	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.03	
5	感染性胃腸炎	3,202	11.12	10.17		14	流行性角結膜炎	46	0.48	0.80	
6	水痘	335	1.16	1.35		15	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.02	
7	手足口病	9	0.03	0.35		16	無菌性髄膜炎	4	0.05	0.01	
8	伝染性紅斑	43	0.15	0.15		17	マイコプラズマ肺炎	37	0.44	0.19	
9	突発性発しん	121	0.42	0.51		18	クラミジア肺炎	1	0.01	0.00	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成24年2月分(2月1日～2月29日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	39	1.70	2.25		23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	130	6.19	5.30	
20	性器ヘルペスウイルス感染症	18	0.78	0.74		24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	16	0.76	1.36	
21	尖圭コンジローマ	11	0.48	0.54		25	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	—	
22	淋菌感染症	11	0.48	0.88		26	薬剤耐性緑膿菌感染症	4	0.19	0.06	

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成23年2月1日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

- 急減疾患 RSウイルス感染症(478件→219件)
伝染性紅斑(117件→43件)

発生記号(前月と比較)

急増減			1:2以上の増減
増減			1:1.5～2の増減
微増減			1:1.1～1.5の増減
横ばい			ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患,月報対象8疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	62	結核(62)〔西部保健所(8), 西部東保健所(5), 東部保健所(11), 北部保健所(1), 広島市保健所(25), 呉市保健所(4), 福山市保健所(8)〕
三類	0	発生なし
四類	4	A型肝炎(1)〔広島市保健所〕, レジオネラ症(3)〔東部保健所(2), 広島市保健所(1)〕
五類全数	11	アメーバ赤痢(3)〔東部保健所(1), 広島市保健所(2)〕, 急性脳炎(2)〔福山市保健所〕, 後天性免疫不全症候群(4)〔広島市保健所(3), 福山市保健所(1)〕, 風しん(1)〔福山市保健所〕, 麻しん(1)〔東部保健所〕

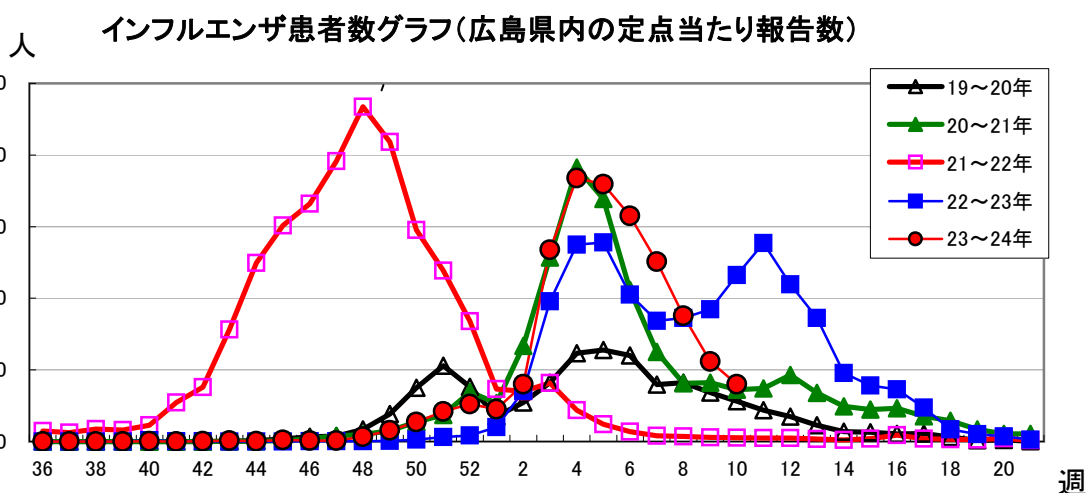
3 一般情報

(1) インフルエンザ警報の解除について

広島県感染症発生動向調査による平成24年第12週(3月19日～3月25日)の定点医療機関(115医療機関)からの患者報告数が, 県内のすべての保健所管内(7保健所)で警報継続基準(定点当たり10)未満となり, 県全体でも定点当たり4.22と減少しました。

このため, 平成24年1月25日に県全域に発令したインフルエンザ警報を平成24年3月29日に解除しました。

なお, 今シーズンの流行のピークは例年とほぼ同時期の第4週(1月23日～1月29日)で, 検出されたインフルエンザウイルスは, A香港型(H3N2)インフルエンザウイルスが主流でした。



(2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

県では, 平成24年第3週(1月16日～1月22日)の定点医療機関(72医療機関)からの患者報告数が, 北部保健所管内(三次市, 庄原市)で警報開始基準(定点当たり8)以上となったことから, 平成24年1月25日にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しております。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は, 冬季及び春～初夏の2つのピークがみられ, 学童期の小児に最も多く発生する感染症ですが, 昨年も北部保健所管内では, 2月～5月下旬にかけて警報開始基準以上の大きな流行があったことから, 今後の流行状況については, 特に注意が必要です。

病原体	A群溶血性レンサ球菌 (この病原体は, 咽頭炎だけでなく, 中耳炎, 肺炎, 髄膜炎などいろいろな病気を引き起こします。)
症状	感染すると通常2～5日の潜伏期を経て, 突然の発熱と全身倦怠感, 咽頭痛によって発症し, しばしば嘔吐を伴います。熱は3～5日以内に下がり, 1週間以内に症状は改善しますが, まれに重症化し, 「猩紅熱(しょうこうねつ)」に移行して軟口蓋の小点状出血あるいは莓舌がみられることがあります。
治療と予防	レンサ球菌には, 抗菌薬が有効なので, お子さんが熱を出して扁桃腺を腫らした場合は, 単なる「喉痛」と片付けず, かかり付けの先生を受診されることをお勧めします。 また, この病気は, 患者の分泌物等からの飛沫やそれらに汚染された器物から感染しますので, 感染症予防の基本である「手洗い」と「うがい」の励行を心がけてください。

※なお, 最新の発生状況等については, 次のホームページをご覧ください。

○広島県「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報の発令中です」

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/57/1258079048228.html>